

 フジ日本精糖株式会社

証券コード：2114

第 **101** 期
株主通信

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日



企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実

CONTENTS

トップインタビュー	P 2
セグメント別の状況	P 5
連結財務諸表	P 7
会社概要／株式情報	P 9
トピックス	P10
インフォメーション	裏表紙

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地－静岡市清水区(三保海岸)－「波飛沫と富士」

トップインタビュー

2040年を見据え、「攻めへの転換」を始動。

Q 2024年3月期を振り返り、営業状況をご説明願います。

A コストの上昇を販売価格に反映。期初予想を大きく上回る形で増収・増益を遂げました。

この1年間は、コロナ禍の影響がほぼ払拭されたことにより、国内経済の回復が進んだものの、円安の進行が物価を押し上げ、原材料・エネルギー価格の高騰や物流費・人件費の上昇などコスト環境の悪化が続き、先行き不透明な状況で推移しました。

そうした中で精糖事業の営業状況は、販売数量が前期を若干下回りましたが、原料糖の国際価格上昇と円安の影響、製造コストの増加などを販売価格への連動によりカバーし、増収・増益となりました。

機能性素材事業のうち「イヌリン」の営業状況は、国内において引き続き採用件数・販売数量を伸ばし、好調を維持しました。海外における「イヌリン」は、東南アジアの三国間販売において需給調整が生じながらも、生産拠点のタイ国内は、順調に販売を伸ばしました。連結子会社ユニテックフーズ株式会社も、ペクチン、ゼラチン、コラーゲンなど天然添加物素材の販売が増加し、堅調に推移しました。結果として、機能性素材事業全体では増収となりましたが、製造コストの高騰を受け、利益は減少しました。

以上により2024年3月期の連結業績は、売上高258億89百万円(前期比14.2%増)、営業利益21億73百万円(同19.8%増)、経常利益32億2百万円(同50.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益23億70百万円(同41.7%増)となり、期初予想を大きく上回る形で増収・増益を遂げました。なお経常利益段階以降に受取配当金による一過性の増益が反映されています。

Q 新たな事業展開に向けてどのような動きを進めていますか？

A バイオインフォマティクスによる酵素開発でスタートアップと提携し、協業を開始しました。

当社は2023年12月、東京工業大学発のスタートアップである株式会社digzyme(以下、ディグザイム社)と業務提携契



代表取締役社長 曾我 英俊

約を締結し、2024年3月には同社の第三者割当増資を引き受け、資本参画しました。

バイオインフォマティクスによる酵素開発をコア技術とするディグザイム社は、世界中の酵素の遺伝子情報をデータベース化した独自の解析基盤を有しており、これを活かして多種多様な酵素の探索や改良を短期間で行うことができます。当社は今後、同社の戦略的パートナーとして酵素開発技術の実用化をサポートしつつ、共同プロジェクトを通じて、機能性素材事業における既存素材のバリューアップと新製品の開発を推進します。

具体的に述べますと、当社が手掛ける「イヌリン」の生産は、酵素を使って砂糖を食物繊維へ転換していますが、そのプロセスにディグザイム社の解析基盤および技術・ノウハウを活用



し、「イヌリン」の生産性を高め、収益改善につなげていく考えです。さらには酵素開発技術を新規の機能性素材づくりに活用し、当社のパーパスに掲げる「フードサイエンスの技術による新たな価値の創造」を具現化してまいります。

Q 長期ビジョンと5か年中期経営計画について伺います。

A 「世界で闘う企業へ」を掲げ、海外市場と新たな事業領域に成長機会を求めていきます。

2023年11月、当社は「NEXT VISION 2040」を公表し、このたび同長期ビジョンの実現に向けたファーストステージと位置付ける第1次中期経営計画（2025年3月期～2029年3月期）を始動しました。

「NEXT VISION 2040」は、当社がステークホルダーの皆様から寄せられる成長・発展へのご期待に応えるべく、長期視点で「2040年のあるべき姿」を目標設定し、その達成へのロードマップを明確化したものです。16年後の当社において中核となる若手・中堅社員が主体となり、タスクフォースを組成して議論した「あるべき姿」の骨子をもとに、経営陣がこれをまとめていきました。

その内容は、今後の国内市場の縮小を踏まえ、「世界で闘う企業へ」をテーマに掲げ、海外市場と新たな事業領域に成長機会を求めるとともに、精糖メーカーからフードサイエンスカ

ンパニーへの転換を遂げていくものです。2040年における定量目標は、「経常利益100億円（うち海外比率40%以上）」「ROE12%以上」「DOE4.0%」「D/ELシオ0.7倍以下」を設定しました。現在の3倍から4倍の利益水準を目指すチャレンジングな目標です。

そして、この「2040年のあるべき姿」からバックキャストする形で、5か年中期経営計画を3段階積み上げていくロードマップを描き、ファーストステージとなる第1次中期経営計画「CHANGE 2028」を策定しました。

「攻めへの転換」をスローガンとする「CHANGE 2028」は、東南アジアでの事業拡大とフードサイエンス領域の事業創出に本格的に着手し、M&Aや生産増強を含む成長への投融資を積極的に実行していく方針です。計画5年間の具体的なキャッシュフローは、営業キャッシュ・フロー100億円と資産売却50億円に借入金80億円を加えた総額230億円を原資として、180億円を投融資へ、50億円を株主還元へ配分する想定です。計画最終年度の2029年3月期における定量目標は、「売上高360億円」「経常利益36億円」「ROE9.0%以上」「DOE3.5%以上」を掲げました。

その後の第2次中期経営計画で実現していく「多角化と成長」、さらに第3次中期経営計画が目指す「世界市場への浸透」へ続く成長戦略の基盤づくりとして、この5年間で着実に「転換」を果たしてまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 第1次中期経営計画初年度は「転換」に向けた試金石の1年として、しっかりと「攻め」を進めます。

「CHANGE 2028」初年度の2025年3月期は、インバウンド需要の増加などを背景に、引き続き増収を継続しながらも、物流費・人件費を中心にコストの上昇が予想される中で積極的な投融資を開始することから、利益面については、2024年3月期を下回る見込みです。やや厳しい計画スタートとなりますが、2年目以降に「転換」の成果を上げるための試金石の1年として、しっかりと「攻め」を進めていく考えです。

なお今回の期末配当は、「DOE3.5%以上」を目標とする株主還元方針にもとづき、1株当たり17円を実施させていただきました。これにより年間配当額は、当期より導入した中間配当の同15円と合わせて、同32円（前期比15円増配）となりました。

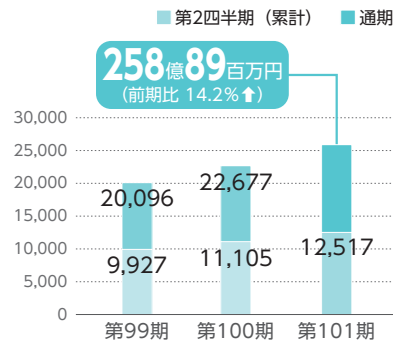
上述の通り2025年3月期の連結業績は、今のところ減益となる見通しですが、株主還元については「DOE3.5%以上」の目標を維持すべく、年間配当額1株当たり32円（中間15円・期末17円）を据え置く予定です。

株主の皆様におかれましては、パーパスにもとづく社会的貢献と持続的成長の実現に向けて、中期経営計画および長期ビジョンを遂行していくフジ日本精糖の未来づくりにご期待いただき、今後とも厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

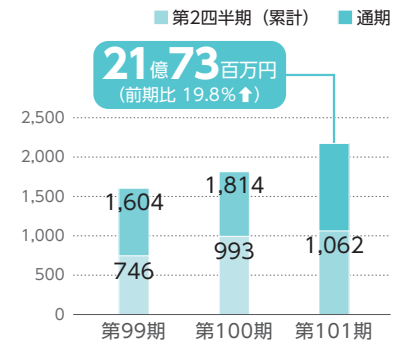
連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

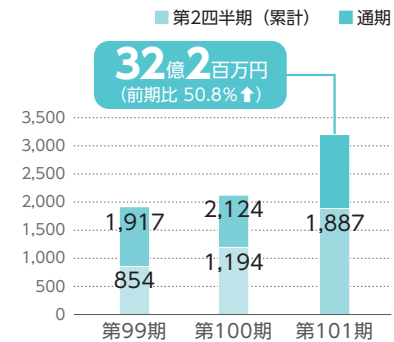
売上高 単位：百万円



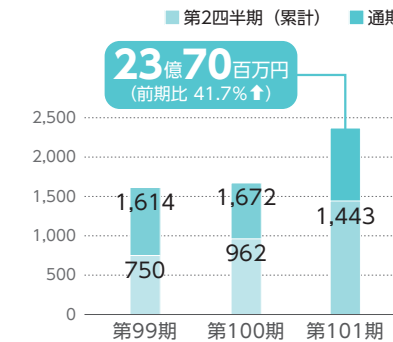
営業利益 単位：百万円



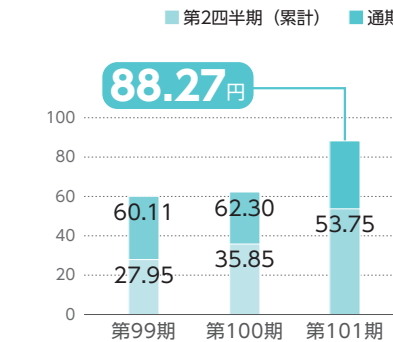
経常利益 単位：百万円



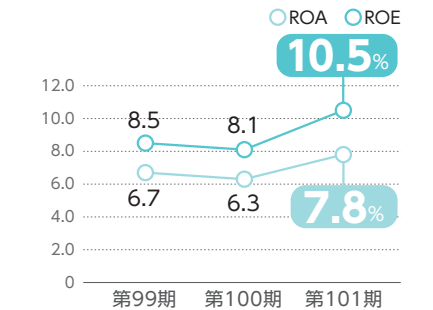
親会社株主に帰属する当期純利益 単位：百万円

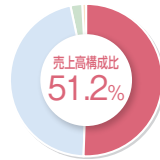


1株当たり当期純利益 単位：円



総資産利益率 (ROA) 自己資本利益率 (ROE) 単位：%





精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況

売上高：13,254百万円
営業利益：1,769百万円

精糖事業につきましては、海外原糖市況は、ニューヨーク先物市場が期初22.35セント（1ポンド当たり）で始まり、タイ、インド等の北半球の生産国におけるエルニーニョ現象由来の干ばつによる減産見通しと、投機筋の買い増しから28セント台まで上伸を続けました。その後、年末にかけてブラジルにおける砂糖生産数量の大幅増産が確認されると20.03セントまで急落、投機筋の買戻しもあり24セント台まで上伸しましたが、タイ、インドでの減産予測が緩和され、世界需給の緩和が意識されたことで、再び値を下げ22.52セントで期末を迎えました。

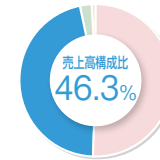
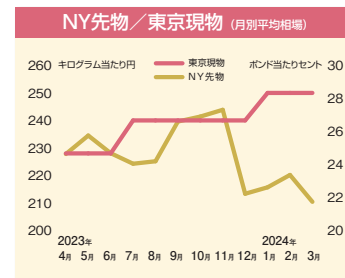
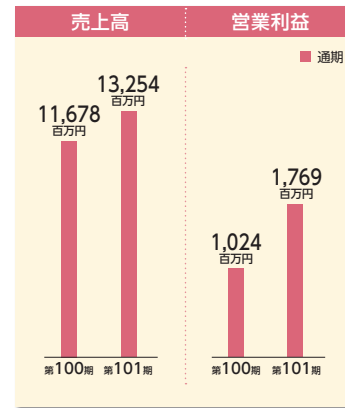
ニューヨーク市場先物相場（セント/ポンド当たり）の動き

期初	高値	安値	期末	平均
22.35	28.14	20.03	22.52	24.53

一方、国内製品市況は、期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）227円～229円（上白大袋1キログラム当たり）で始まりましたが、2023年7月に12円、2024年1月に10円上昇し、249円～251円で期末を迎えました。

製品の荷動きとしましては、インバウンド需要が徐々に回復したことにより、飲料・菓子・乳製品関係が堅調に推移しましたが、価格高騰による買い控えもあり、販売数量はほぼ前期並みとなりました。利益面では、原材料やエネルギーコストの高止まりや円安による製造コストや物流コストが増加したものの、販売価格も連動して上昇した結果、増益となりました。

この結果、売上高13,254百万円（前年同期比13.5%増）、営業利益1,769百万円（同72.7%増）の増収増益となりました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況

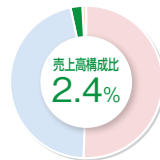
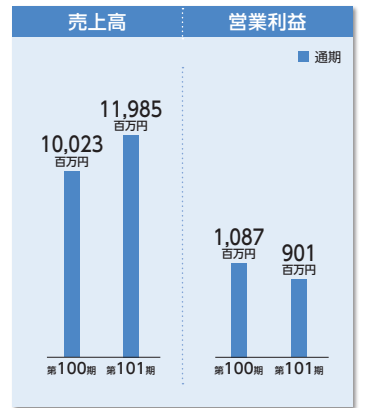
売上高：11,985百万円
営業利益：901百万円

機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、原材料やエネルギーコストが高止まりするなか、国内販売においては糖質オフ、機能性表示食品への採用増により、前期に比べ販売数量は増加しました。さらに、海外販売においては東南アジア向け販売が落ち込んだものの、生産拠点であるタイでの新規採用が増加したことで前期に比べ販売数量が増加し、増収となりました。しかしながら、利益面では、原材料コストの高騰などにより、減益となりました。

切花活力剤キープ・フラワーは、業務用製品の販売は前期並みでしたが、物価高による生花価格の上昇を受け、家庭用製品の販売が減った結果、減収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、主力商品であるペクチン、ゼラチン、コラーゲン等の天然添加物素材の販売が伸長し、増収増益となりました。

これらの結果、売上高11,985百万円（前年同期比19.6%増）、営業利益901百万円（同17.1%減）の増収減益となりました。



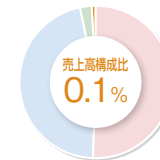
不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況

売上高：621百万円
営業利益：553百万円

新規物件として、2023年9月旧本社跡地にビジネスホテル「東横INN茅場町駅」を建設し、賃貸を開始しました。この結果、売上高621百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益553百万円（同3.7%増）の増収増益となり、引き続き安定収益確保に貢献しました。



その他食品事業

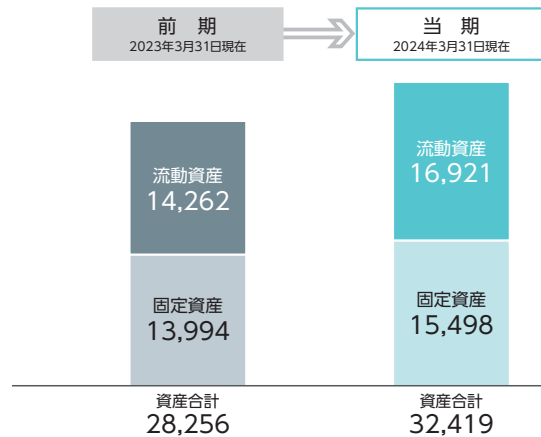
事業内容：タイにおいて食品関連事業を行っております。

その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、売上高28百万円（前年同期比92.9%減）、営業利益2百万円（同84.0%減）の減収減益となりました。

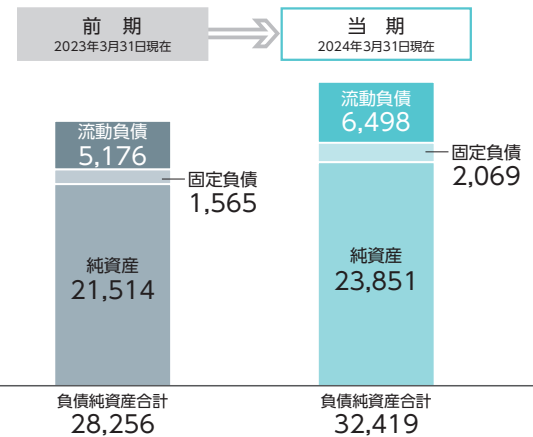


連結貸借対照表

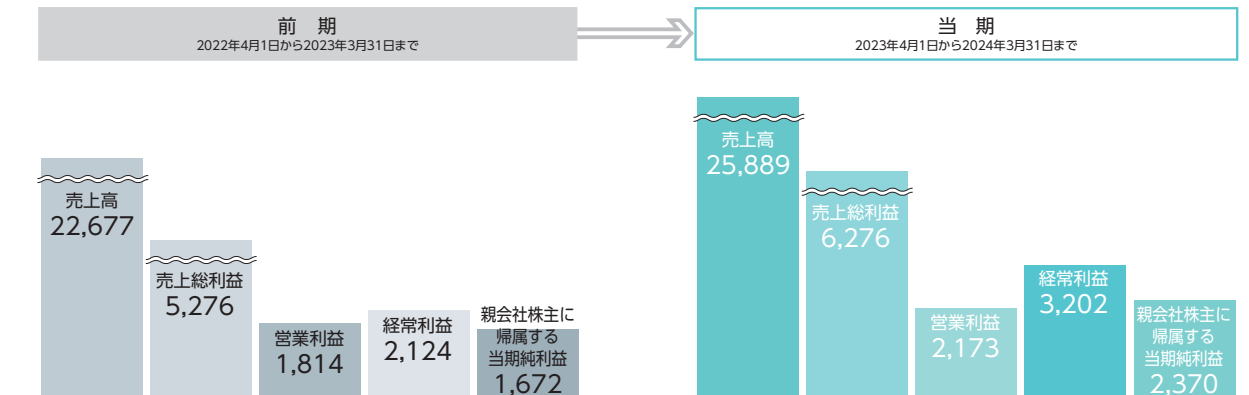
● 資産の部 (単位: 百万円)



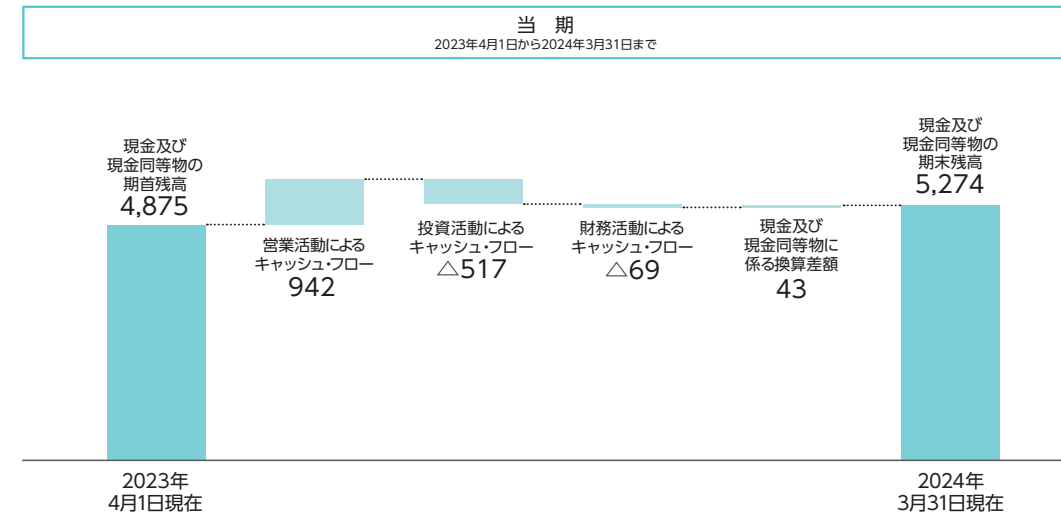
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ18.6%増加し、16,921百万円となりました。これは主として受取手形、売掛金及び契約資産、棚卸資産の増加などによるものであります。

また、固定資産では、前期末に比べ10.7%増加し、15,498百万円となりました。これは主として投資有価証券の増加などによるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ25.5

%増加し、6,498百万円となりました。これは主として短期借入金増加などによるものであります。

また、固定負債では、前期末に比べ32.2%増加し、2,069百万円となりました。これは主として繰延税金負債の増加などによるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ10.9%増加し、23,851百万円となりました。これは主として利益剰余金の増加などによるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	57名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd. 株式会社Tastable
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社 DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. 上海唯露食品有限公司

役員 (2024年6月25日現在)

代表取締役社長	曾我 英俊
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役上席執行役員	大橋 高弘
取締役	高橋 明彦
取締役	和田 哲義
取締役	埴原 正和
取締役	大越 いづみ
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役	藤田 世潤
監査役	二宮 照興

執行役員

常務執行役員	和田 正
上席執行役員	新野 真人
執行役員	斎藤 寛
執行役員	谷津 裕司
執行役員	杉山 伸

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

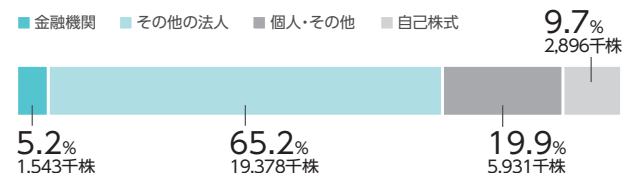
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	21,409名

大株主

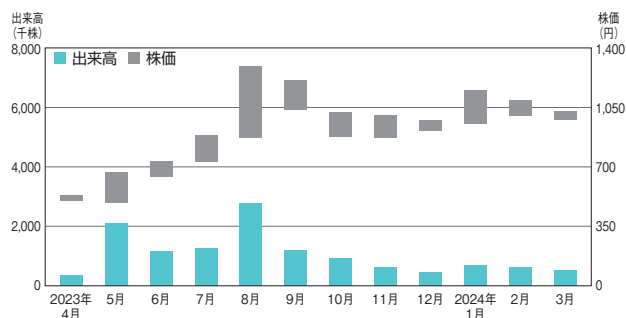
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
和田製糖(株)	2,455	9.1
鈴与(株)	1,902	7.1
豊田通商(株)	1,229	4.6
(株)静岡銀行	792	2.9
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所実績)



『ラクペコ』公式サイトで販売中!

体重の減少をサポート
脚のむくみを軽減
便通の改善

No.1
No.1
No.1

機能性表示食品

※茶カテキン(ガレート型カテキン)は、肥満気味な方のお腹まわりの脂肪(内臓脂肪、皮下脂肪)を低下させ、体重の減少をサポートし、高めのBMIを低下させる機能があることが報告されています。
※ヒハツ由来ペクチン類は脚のむくみが気になる健康な女性の夕方の脚のむくみ(病的ではない一過性のむくみ)を軽減することが報告されています。
※有胎子性乳酸菌は生きて腸まで届き、便通が気になる方の便通を改善することが報告されています。
※調査機関:2023年12月11日~2023年12月25日
調査機関:ECキャスティング調べN数=100名
対象:全国の20代~50代男女100名(女性:93名、男性:7名) ※インフルエンサー・モニター含む

ラクペコは『肥満気味な方のお腹まわりの脂肪の低下や体重の減少をサポート』『夕方の脚のむくみ(病的ではない一過性のむくみ)の軽減』『便通の改善』の3つの機能を謳った機能性表示食品のサプリメントです。1日3粒を目安にお水などと一緒に召し上がりください。

サプリメントと思えない可愛いパッケージで、当社通販サイト (btoc.fnsugar.co.jp) で販売しております。初回購入キャンペーン中です!ぜひお買い求めください。



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
基準日	3月31日 なお、中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL https://www.fnsugar.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。